

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会  
再生普及行動計画ワーキンググループ(第19回) 議事要旨

日時：平成22年11月19日(金) 18:30～20:32

場所：釧路地方合同庁舎 4階 共用第三会議室

【出席者(敬称略)】

再生普及行動計画ワーキンググループ構成メンバー

<個人(所属)>

- 君塚孝一((有)自然文化創倉オホーツク知床リサーチワークショップ)
- 清水信彦(個人)
- 新庄久志(釧路国際ウェットランドセンター主任技術員、環境ファシリテーター)

<団体(出席者)>

- 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会(尾村和男)
- 釧路市民活動センターわっと(成ヶ澤茂)
- こどもエコクラブくしろ(近藤一燈美)

<関係行政機関(出席者)>

- 釧路市 環境保全課(菊地義勝)
- 標茶町 企画財政課(中島吾朗)
- 北海道開発局釧路開発建設部治水課(専業専門官/中村真二)
- 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所(所長/野口明史)
- 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター  
(自然再生指導官/朝倉基博)
- 北海道教育庁釧路教育局(主幹/木村光弘)
- 北海道釧路総合振興局(自然環境係主任/石井弘之)

再生普及小委員会(所属)

<個人(所属)>

- 高橋忠一(個人)

再生普及行動計画ワーキンググループ事務局

- 環境省北海道地方環境事務所 国立公園・保全整備課課長補佐(伊藤俊之)  
釧路湿原自然保護官(竹中康進)
- 財団法人北海道環境財団(久保田学、内田しのぶ、清水美希)

【議事概要】

事務局 第19回再生普及行動計画ワーキンググループ(以下「行動計画WGと表記」)を開催する。冒頭、新規参加の方(釧路開発建設部中村氏)自己紹介。  
(資料確認後、新庄座長による進行)

議事1 2010年度再生普及行動計画WGの取組み進捗状況について

事務局(資料1-1に沿って説明)前回の行動計画WG以降、自然再生事業の普及啓発のために

エコフェア、産業まつり、環がまち釧路フェスタなどに参加してきた。10月には第2期再生普及行動計画概要版パンフレットが完成し配布を開始した。

(資料1-2に沿って説明)ワンダグリンダ参加者に湿原をより深く知っていただく目的のフィールドワークショップについては、なかなか見られない旧川復元事業現場を実際に川や陸から見ることができた。参加者の感想もよかったです。次回は下幌呂の自然再生事業の予定地を予定している。情報発信の拡充はパネルや釧路湿原の航空写真の展示で非常に好評だった。第2期行動計画に合わせたパネルは現在、作成中である。

(資料1-3に沿って説明)地元、観光者、湿原に関心のある方対象のアンケート調査を行った。釧路湿原周辺住民に絞った場合では関心度が高かった。アンケート調査は、市民から意見をもらえる場、自然再生やワンダグリンダの宣伝の場でもあるので今後も続けていく。

(資料1-2に戻って説明)自然再生の情報を分かりやすくリアルタイムに市民に伝える取組みとして、本年度より森林再生小委員会の話題を中心に広報をはじめた。(質疑等、特になし)

### 議事2 「ワンダグリンダ・プロジェクト2010」中間報告

事務局 (資料2-1に沿って説明)新たに4団体6取組みが加わり、ワンダグリンダ応募者は44団体75取組みとなった。釧路ウォーターアートプロジェクトは水のアートワークショップを開催、こどもエコクラブくしろはマルハナバチやセイヨウマルハナバチの調査、駆除活動などを行っている。前回行動計画WG後に応募のあった阿寒高校、リング・リングは、去年も応募があったので継続とした。

(参考資料「ワンダグリンダ・プロジェクト2010」報告フォーマットに沿って説明)第1期行動計画では10の柱だったのが、第2期行動計画では3つの柱へとの変更になり、それに合わせて、応募取組みが3本柱のどれに当てはまるかを応募者に選んでもらうように欄を加えた。ワンダグリンダ2010の取組み報告については年明けから依頼を始める予定である。

(資料2-2の説明)赤字の部分が、新たな4団体6取組みである。(質疑等、特になし)

### 議事3 「ワンダグリンダ・プロジェクト2011」の募集概要(案)について

事務局 (資料3に沿って説明)ワンダグリンダの申込みは通年受け付けているが、市民の関心を高めるため、1ヶ月間の集中募集期間を設けている。広報についてはホームページなどへの掲載を進めていきたい。関係機関においてもホームページに載せてもらえると広報の良い機会となると考えている。昨年度からの変更点としては、チラシの数を8000枚から10000枚に増やし配布していきたい。応募用紙については参考資料「ワンダグリンダ・プロジェクト2011」をご参照ください。

座長 各自治体のホームページで募集をPRしていただけるとありがたい。アイデア等あれば。

委員 釧路国際ウェットランドセンターでは対応が可能である。最近はホームページだけでは

- なく、ブログがメディアで見やすいのでリンクをお願いしてはどうか。
- 委員 当自治体ではホームページは総務課で一括管理しており、持ち帰って考えたい。
- 座長 リンクしてもらうにあたって手続き等があるならば是非教えていただきたい。
- 委員 市役所としては、主催の行事以外のリンクや掲載については制約がある。広報誌もページ数を2/3に落としてあり、トップページは市関与の案件が優先となっている。行動計画WGのホームページにもっとリンクを飛ばすような工夫を考えてはどうか。
- 行動計画WGのホームページは携帯サイトに対応しているのか？
- 座長 サーチエンジンで「ワンダグリンダ」は引っかかるのか？
- 事務局 検索エンジンではヒットするが、携帯サイトには対応できていない。
- 委員 若い人は携帯を使う。
- 委員 「ワンダグリンダ」を調べて見てみようと思ったときに、パソコンではハードルがあり、携帯で見れるのが良いのではないか。ブログは対応しやすいのではないか。
- 事務局 文字ベースの簡略版であれば考えられる。調べてみたい。
- 座長 携帯でもホームページ発信する工夫をしてはどうか、という提案である。
- 委員 釧路国際ウエットランドセンターはQRコードでアクセスできるようにしている。サーチエンジンを立ち上げるより早い。QRコード作成のアプリケーションは無料で入手できる。
- 委員（資料1-2について）第2期行動計画の英語版パンフレットはなぜ作るのか？
- 事務局 JICA研修で外国の方に紹介する機会がある。
- 委員 どのくらい利用されているか？
- 事務局 JICA研修、釧路湿原野生生物保護センターでの配布、ラムサール条約締約国会議などの国際会議での配布をすすめてきた。釧路湿原野生生物保護センターでも外国人の訪問者がもっていくことが多い。釧教大のESD国際シンポジウムでも紹介、配布したことがある。全体構想の英語版とあわせて配布している。
- 委員 次のラムサール条約締約国会議（ルーマニア）は2012年の5月なので、2011年内に作らないと間に合わない。来年はラムサール条約締結40周年である。
- 座長 海外との交流は各地であるだろう。
- 委員 WEBでダウンロードできるようにするなど何らかの形で用意しておかないと困る。前回アメリカから高校生が来たときも釧路湿原についての渡す物がなかった。
- 事務局 渡す場所などを考え、作成していきたい。
- 新庄 ホームページも英語版が必要。JICA研修等でも印刷物より喜ばれる。パンフレットの英訳版を載せればよい。印刷せずCD-Rでもいいかもしない。

#### 議事4 今後のスケジュール(案)

- 事務局（資料4に沿って説明）11月30日開催予定の再生普及小委員会にて行動計画WGの報告をし、12月開催予定の釧路湿原自然再生協議会を経て「ワンダグリンダ・プロジェクト2011」の募集を開始、来年5月の行動計画WGと普及小委員会の承認を経て、公開予定である。（質疑等、特になし）

## 議事5 情報発信のありかたについて(検討)

事務局 (事務局から模造紙で検討の趣旨説明) 前回4月の行動計画WGでは、行動計画の3つの柱のうち「自然再生への参加する・行動する」を重点的に取組み、促進していくための検討をしていただいた。その中の意見として、市民に自然再生事業自体が知られておらず、地元や一般の人にリアルタイムでわかりやすく伝えていくことが必要、ということであった。行動計画WG事務局としては、そこを進めることができ自然再生への参加、行動を動機づけると考え、まずそこから着手していきたいと考えている。まずは、森林再生事業をモデルに着手し、それを他の実施計画にも広げ、自然再生への参加・行動を促進する考え方である。現在は森林再生をモデルに情報発信の強化をはじめており、そのいくつかを紹介する。

(資料1-2に沿って説明、関連WEBサイト(映写)) 今の協議会のホームページでは会議資料やニュースレターの記事が多く、初めての人には再生事業全体がわかり難いので、初めての人でもわかり易く、自然再生を知ってもらうきっかけとなるようなWEBページ(1ページ)を新規に作成する予定である。そのページから更に詳しく知ることができるよう、現存する事業紹介のページにリンクする予定である。なお、「行動計画WG通信」のページにバナーを貼る予定である。他に、リアルタイムの情報発信として、現在「森林再生の今!」というブログを実施しており、今後も更新を続けていきたい。自然再生事業の地元への理解が重要ということで、今年は標茶町の産業まつりに参加し、地元で行われている雷別の事業の紹介やワンドグリンダのPRを行った。それと、標茶町と釧路町の広報において連載を行った(参考資料「広報しべちゃ、広報釧路町掲載記事」参照)。連載期間は7月号から10月号の4回であった。地元の多くの方に自然再生の話題を知っていただけたと思う。

これらのこと踏まえ、みなさまには森林再生小委員会の取り組みをモデルにした情報発信の方法についてご議論いただきたい。なお、意見交換に当たって若干のルールを説明します。活発な意見交換のために、所属にとらわれない、自分が発言したことを自分ができなくとも良い、どこぞの機関がやるべきといった押しつけはしない、などです。現在の情報発信は十分か、不足している点はないか、また新たな取り組みにもついても意見をいただきたい。

なお、現在自然再生協議会として行われている情報発信については資料5をご参照ください。

委員 森林再生を紹介するブログの更新はどこがやっているのか?全部の小委員会について今後作るのか?

事務局 今は行動計画WG事務局が行っている。いずれは全てに広げたいが、現在は森林再生からはじめている。

座長 現在の森林再生についての情報発信、これをモデルとした更なる発信のアイデア等という2つについて意見をお願いしたい。

委員 雷別地区の森林再生の取組みについて、私は「ドングリ俱楽部」に参加しているのでわかるが、他の皆さんにはほとんどご存じないのではないか。森林再生の取組みについて共有する必要があるのではないか。

座長 各事業の中身ではなく、情報発信の手法について考えたい。まず、情報発信全体について、各テーブル毎に20分程度意見交換をお願いしたい。

《検討 約30分》

《検討発表》各テーブル毎、約5分

発表者（第1テーブル）新聞掲載をしてもらってはどうか、という意見が出た。現在はイベント等単発の掲載が中心であり、継続・連載してもらえるのが望ましい。そのためには濃い中身が必要で、他例との比較などを踏まえた独自の情報収集や、参加者が選択できる程の沢山のイベントメニュー（そこに一般参加できるものが含まれていることが重要）があると記者は飛びついてくる。

日本経済新聞の「私の履歴書」欄は一人の人が1ヶ月ほどの連載記事となっていて面白く、多くの人の目に触れる良い広報である。こういったところに連載されれば、釧路湿原が継続して目に触れらることになり良いのではないか。

小中学校で行われているUNESCOスクールもネタを必要としており、外部講師など良質な教育を提案できる。小中学生から声をかけていくことで、初めは楽しみとして木を切ることから始まり、何年かして間伐の大切さを知る等、長期間となるが環境への意識も高まり、動機づけも理解される。長期計画の中で地域の人材に興味を持ってもらうことも大切である、といった意見があった。

発表者（第2テーブル）湿原は距離的に街と離れており、周辺住民は国や行政が調査をやっているところという認識が多いので、釧路湿原の再生事業を自分事と考えてもらう必要がある。「クッキー」のように湿原伝説をつくったり、神社など地元生活に密着したものにしていくとよいのでは、という意見があった。

また、自然再生の目標を明確にしないと住民としてはイメージが湧かない。山菜採り等関心を持たせる付加価値をつけた再生イベント企画も必要ではないか。湿原SL号に沢山の人が集まるので、JRと組んでSLのファンを対象に、湿原だけではなく自然再生をPRするのもよい。全国一斉に行われている植林の取組みを湿原で導入してはどうか。各学校から代表でボランティアを出してもらい、そこから子供に伝えていくのはどうか。まずは自然再生現場に行ってもらうことが重要であり、釧路湿原は、今は地元の人が親しんでいる場所ではなく外から観光でくるところだが、地元に密着した伝統のまつりなどの機会を使って湿原に親しんでもらうのはどうか。今行われている学校の取組みを他の学校にも取り入れていける横のつながりができるとよい。親（大人）に呼びかけても参加しないことが多いので、子どもの参加に親がついてくるような企画を考えてはどうか。切った間伐材の活用等の手法、キノコ採りなどの食事、ログハウス作り、神社、仏閣を結びつける等の手法等で、

これまで参加していない人を呼び込んではどうか、という意見があった。

発表者（第3テーブル）自然再生が新聞等の記事に掲載されても、関心がないのでスルー（注視されない、気がつかない）されてしまうことが多い。今回、標茶町の広報に森林再生の記事を掲載したが、50年前の湿原との違いやこれから湿原で起こることの可能性等、市民に知られていないことを紹介できたことはよかったです。まずは、自然再生という単語を知ってもらう、目にしてもらうことが必要で、マスコミをもっと活用することが必要だと考える。眞實の記者さんへ情報を流し、新聞への頻繁な掲載、インパクトのあることをやる、著名人を呼ぶ、「農ギャル」（農業をやるギャルと話題になった）のような話題を通して自然再生を取り上げてもらうなどのアイデアが出た。また、新聞へのイベント情報の流し方も、昨年の楽しい状況を添える等、工夫が要るのではないか、という意見があった。

それと、標茶町では「森と川の月間」イベントが町民に認知されているが、そうしたものに併せて自然再生を広報できるとよい。これまで知らなかった人に「自然再生」という単語が目につくような機会をつくることが大切という意見があった。

座長 共通するのは、既存の行事や宣伝方法等を活用しようということ。我々は既存の取組みにどのようなものがあるのかを情報収集し（各市町村における植樹祭や各種行事など）、活用・工夫するために整理する必要がある。これを元に、広報の機会に関する情報を集め、それぞれへのアプローチのアイデアを出し、アクションプランとすることを考えてみたい。

### 3その他

（各委員から持参チラシの情報紹介など）

委員 12月19日開催「湿原たからばこ」の説明

委員 12月4日開催の助成金説明会と政策提言交流会の説明

事務局 アサヒスーパークリエイティブの北海道未来プロジェクトの説明

事務局 12月11日開催のシマフクロウ講演会の説明

委員（初めて参加する北海道教育局木村主幹（途中から参加）自己紹介）

事務局 北海道環境財団清水より着任挨拶と内田より退任の挨拶

事務局 これで第19回行動計画WGを終了させていただく。

以上